プロジェクト名	精神的プレゼンティーズム解消プロジェクト	
代　表　者	地域未来協創本部　教授　岩下義明	
達成に資するSDGs 目標	目標 3「すべての人に健康と福祉を」 目標 8「働きがいも経済成長も」 目標 9「産業と技術革新の基盤をつくろう」 目標 10「人や国の不平等をなくそう」 目標 11「住み続けられるまちづくりを」 目標 17「パートナーシップで目標を達成しよう」	
プロジェクトの意義、成果及び波及効果	島根県では人口減少と少子高齢化が進行し、生産活動の中核を担う 15～64 歳人口も減少傾向にある。地域社会を持続可能に維持するためには、労働者数の確保だけでなく、就労可能な人が心身の不調により本来の能力を発揮できない「プレゼンティーズム」を低減し、一人ひとりの労働パフォーマンスと働きがいを高めることが重要である。 本プロジェクトでは、特に精神的不調に起因する「精神的プレゼンティーズム」に着目し、島根大学人間科学部が開発した ScWAT による働き方タイプ評価、同じく島根大学医学部発の尿中バイオピリン検査によるストレス反応の評価、ならびにプレゼンティーズム・ワークエンゲイジメント指標を統合することで、人口減少地域における新たな健康経営・未病対策モデルを構築する。 本研究は、SDGs 目標 3「すべての人に健康と福祉を」、目標 8「働きがいも経済成長も」、目標 9「産業と技術革新の基盤をつくろう」、目標 10「人や国の不平等をなくそう」、目標 11「住み続けられるまちづくりを」、目標 17「パートナーシップで目標を達成しよう」に資する。成果として、地域企業・医療介護施設における精神的プレゼンティーズムの実態、働き方タイプとの関連、尿中バイオピリンを用いた客観的評価可能性、健康経営型介入の実装可能性を明らかにし、令和 9 年 12 月までに 6 編以上の論文創出を目指す。	
実施体制	担当部局名・職名・氏名	役割
	地域未来協創本部　客員教授　窪田和巳	研究データ解析
	医学部　客員教授　大西新	尿中バイオピリン検査を用いた検証
	人間科学部　教授　石原宏	SCWaT を用いた検証
	島根大学医学部附属病院/大学院医学系研究科　遠藤圭介	研究実施・論文作成
	一般社団法人 SIG/島根大学大学院医学系研究科　東貴大	研究実施・論文作成